

## 夢と志

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



第41回淑楓祭

一方的で無責任となりがちな慈善という名の援助に疑問を呈し、「アキメンファンド」という、貧困の苦しみから自助努力によって抜け出そうとする者の熱意と意欲に、融資という形で支援するNPOを立ち上げたジャックリン・ノヴォグラッツさんの講演「貧困からの避難(www.ted.com)」からの話です。

\*

ノヴォグラッツさんは、アフリカのケニアの首都ナイロビの劣悪な環境のスラムにいらながらも、その表情が、思いやりと優しさに満ちたジェーンさんに感銘を受け、彼女自身の話をしてくれるようにお願いします。すると、彼女は夢の話から始めます。「私には夢が2つありました。最初の夢は医者になることでし

た。そして、2つめは、家族と一緒にいてくれる男性と結婚することでした。しかし、私の母親はシングルマザーで学費を払う余裕がなかったので、最初の夢は諦めなければならず、2つめの夢に集中しました。」

ジェーンさんは18才のときに結婚し、すぐに子供をもうけました。しかし、2番目の子供を妊娠した20歳になったとき、母親が亡くなり、さらに、夫は、彼女のものとを去り、別の女性と結婚したのです。

職もお金もないシングルマザーとなったジェーンさんは、あらゆる手段でお金を稼ぎ、そのためにHIVの感染患者となりました。しかし、それに真正面から向き合い、さらに、小額の融資を受け、中古ミシンを買い、古着の仕立て直しをし、それを街頭で売り、ようやく、生計がたえられるようになります。

ノヴォグラッツさんが「あなたの夢はどうなったの」と聞くと、こう答えました。

「あの頃、夫がほしかったわ。でも、今考えてみると、私の夢は夫をもつことではなく、愛情あふれる家族だったのよ。今、私は物凄く子供達を愛していて、子供達も私をとて愛してくれているの」

「小さいころ医者になりたいと思っていたわ。だけど私が本当になりたかったのは、人に役立って、癒したり、病を治したりする人だったのよ。今、私は1週間に2日、HIV患者のカウンセリングをしているわ。そして私は言うの『私を見て、あなたは死んでいないのよ。生きているのよ、だからあなたは人のために役立たなくちゃ』てね。」

私は薬を与える医者じゃないわ。でも、私はもつと素晴らしいものを与えているかもしれない。

なぜなら彼等に希望を与えているのだから」

\*

ノヴォグラッツさんが講演で語ったジェーンさんは、経済的には貧困かもしれないけれど、決して心貧しくはありません。形はちがっても、子供のころ抱いた「病に苦しむ人の役にたいたい」という志を今果たしており、乙女の頃見た夢「愛情あふれる家族」を築いているからです。

いかなる境遇にあらうとも、誇りを持ち凜として生きる気高さは、時空を越え伝わってきます。

水仙や寒き都のここかしこ

(蕪村)